



女性研究者シンポジウムに中・高から唯一の参加 「ロボット世界一」の追手門学院大手前中・高がプレゼン

今年5月、アメリカで開かれた世界最大規模のロボットコンテスト FLL 世界大会で総合優勝を果たし、世界一となった追手門学院大手前中・高等学校（大阪府中央区、校長：原田哲次）のロボットサイエンス部のチームが、あす（31日）、大阪市内で開かれる女性研究者のキャリアなどをテーマとしたシンポジウムで、大学の発表者に交じって中・高生で唯一、プレゼンテーションを行います。

FLL（ファーストレゴリーグ）は、世界88か国32,000チーム、255,000人以上が参加する世界最大規模のロボットコンテストで、1チーム2～10名の9～16歳の子どもたちで構成しエントリーします。

今年の世界大会は5月にアメリカ・カリフォルニア州のレゴランドで開かれ、世界各国からの80の代表チームが参加しました。

大会は①チームが製作した自走式ロボットを競技フィールドで操り、ミッションとよばれる20個の課題を2分30秒の制限時間内にクリアした数を競い合う「ロボットゲーム」と、②製作したロボットのデザインや今年のテーマ「水循環」に関する自由研究課題、チームワークを英語で説明する「プレゼンテーション」で構成され、合計得点で総合順位が決まります。

追手門学院大手前中・高ロボットサイエンス部のチームは、「ロボットゲーム」に加え「プレゼンテーション」でも高い評価を獲得し、総合優勝を果たしました。



世界一のプレゼンテーションの様子



今年5月のFLLで世界一の瞬間

【登壇するイベント】：日経ウーマノミクスフォーラムシンポジウム
「ダイバーシティ研究環境と女性研究者の未来」

主催：日経ウーマノミクス・プロジェクト実行委員会

【プレゼン日時】：2018年8月31日（金）12時30分から（30分間）

【プレゼン会場】：大阪府立国際会議場 3階イベントホール B会場（大阪市北区中之島5丁目3-51）